

令和3年度 都城市立五十市小学校 学校関係者評価書

段階評価 (4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 ふつう 1 改善を要する)

重点目標	評価項目	評価基準	評価結果	自己評価	改善及び対策	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の育成	学習内容の理解	学年の漢字や計算の到達度80%以上、全学年で実施するCRT結果で評定1の出現率を全校で2ポイント下げる。単元ごとのテストで平均点80%以上	単元テストの平均点は、目標の80点以上を達成できた。	2.7 職員 2.5 保護者 2.8 児童 3.2	2.6	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 学力に関しては、個人差が大きいのではないかと思う。算数は少人数での指導等も行われているが、児童に学力がつくよう指導をお願いしたい。 タブレットやパソコンを使うことで、学習意欲の向上にも繋がっているようであるが、読み・書きといった基本的なことをしっかりと身に付けさせることが大切なので、しっかりと指導をお願いしたい。タブレットやパソコンを使うことが目的ではないという説明で活用に関して理解できた。 学力に関しては、家庭での学習も大切である。保護者に学力を身に付ける必要性を理解させるような啓発の方法を工夫していく必要がある。 読書に関しては、色々な本に触れることができるよう環境も必要ではないか。学校の図書ばかりでなく、市立図書館等の本にも親しめるような取組ができればよい。 家庭でテレビを見なかったりする日を設ける等のノーメディアの取組についても実施できるようにしていくとよい。
	学習意欲	意欲的に学習に取り組む児童の割合が80%以上	90%以上の児童が学習に意欲的に取り組んでいる。	2.5 職員 2.7 保護者 2.4 児童 3.2			
	家庭学習	家庭学習が習慣化した児童の割合が80%以上	90%以上の児童が、家庭学習に進んで取り組んでいると感じている。	2.5 職員 2.6 保護者 2.4 児童 3.3			
	読書	進んで読書をしようとする児童の割合80%以上	児童と職員の評価は高いが、保護者の評価がそれに比べると低い。	2.7 職員 2.5 保護者 2.8 児童 3.2			
豊かな心の育成	生徒指導の三機能を生かした授業づくりとQ-Uの実施・分析、いじめ不登校対策委員会の充実によりいじめ解消100%を目指す。	落ち着いた授業に取り組む児童の割合が90%以上	保護者の方が、児童が落ち着いた授業に取り組んでいると感じている。	2.7 職員 2.5 保護者 2.9 児童	2.6	2.3	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶はこちらからすると、挨拶する。 自分から挨拶ができる子もいるが、その子の性格にもよる。その子の性格に合った対応を心がけている。コロナ禍の中なので、大きな声も出せないこともある。気持ちの面や言葉にすることの大切さについて指導することも必要である。 押しボタン式の横断歩道を渡り終えて、止まってくれた車に一礼する姿は見ていて気持ちがよい。これからも継続して取り組んでほしい。 元気な挨拶ができ、グリーンベルトを通過の登下校もよくできている。 下校時にグリーンベルトを通らない児童がいるので、安全面で指導してほしい。 地域としても、子どもたちを見守り、サポートできるようにしていきたい。
	あいさつ	気持ちの良いあいさつができる児童の割合が90%以上	気持ち良い挨拶ができていると児童は答えているが、もう一息と感じる保護者・職員も多い。	2.5 職員 2.4 保護者 2.7 児童 3.0			
	きまりを守る意識	きまりを守る児童の割合が80%以上	全体的にきまりを守っていると感じている評価になっている。	2.5 職員 2.4 保護者 2.7 児童 3.0			
健康教育の充実と体力向上	元気よく運動し遊ぶ	進んで運動に取り組み、元気よく生活できる児童の割合が90%以上	とても元気よく運動し遊ぶ児童の割合が高い。体力テストに関しては、点数が下がっている。	3.0 職員 3.1.5 保護者 2.91 児童 3.3	2.8	2.3	<ul style="list-style-type: none"> 運動会では、短い時間の中一人一人がよく判断し行動している姿を見て感動した。 早寝早起き朝ごはんは、昨年度よりアップしている。学校での保護者への啓発があったりしたからではないかと思う。 むし歯の治療率が悪い。治療勧告なども行っているようだが、再度保護者への呼びかけをして、治療率をアップしてほしい。 子どもたちを取り巻く現在の環境を考えると、視力低下も心配である。保護者を含めた啓発を今後も行っていく必要がある。 朝の送迎を多く目にする。歩いて登校するよう保護者へ呼びかけてほしい。近隣の商業施設等への駐車も危険で迷惑である。
	手洗い・うがい・歯磨きの生活習慣	手洗い・うがい・歯磨きの生活習慣が身に付いた児童が90%以上	手洗い・うがい・歯磨きについてたいへんよい答えた児童の割合が調査項目の中で一番高かった。むし歯治療率約33%。	2.8 職員 2.6 保護者 3.0 児童 3.3			
	早寝・早起き・朝ごはん	早寝・早起き・朝ごはんに取り組むことができる児童が90%以上	早寝・早起き・朝ごはんに取り組んだと答えた児童の割合も高い。	2.8 職員 2.6 保護者 3.0 児童 3.5			
小中一貫と家庭・地域と一体となった教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会・小中一貫教育推進委員会の充実を図るとともに、地域コーディネータ、社会教育関係団体等との連携を深め、地域の教育力を積極的に取り入れる。 今町小・五十市中との合同授業 研修会を3回実施し一貫教育の充実を図る。 学校だより、HP等での積極的な情報公開と、新聞投稿を推進し、「若い目」掲載20回を目指す。 					3.2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、地域と学校とが連携した活動や取組が実施できないのは仕方ない面もある。コロナ禍の中で、一緒にできることを考えていく必要がある。 学校と地域、家庭との連携・協力をこれからも大切にしていきたい。 ホームページのアクセス数がこの1年間で大きく増えたのは、学校を知ってもらおう上でよかった。 ホームページや安心安全メールで、学校の情報が早く分かたり、詳しく知ったりすることができてよいという話を保護者からも聞いた。今後も情報発信に努めてほしい。